

ICSW

ICSW グローバル・コーポレーション (国際社協ニュースレター)

2010年5月

【概要】

- ソーシャルワークと社会開発に関する 2010 年合同世界会議
- 新刊～『社会福祉における世界の十字路：世界中の緊急課題、討論そして改革』
- 2009 年度英連邦首脳会議に対する市民社会声明
- 『アフリカ経済概観 (AEO)』2010 年版
- 国際通貨基金 (IMF) は新自由主義を放棄したのか？
- クラスタ弾
- 黒海政策
- 市民社会組織に関する新しいオンライン・ダイレクトリー
- 国連大学開発経済研究所 (UN WIDER) の新しい出版物

ソーシャルワークと社会開発に関する 2010 年合同世界会議：アジェンダ

ICSW、IASSW、そして IFSW は、会議の準備だけでなく、今後の 10 年間に向けたソーシャルワークおよび社会開発のアジェンダの構築にも協力して臨んでいる。今後 10 年間のソーシャルワークおよび社会開発の行動アジェンダは、人を中心とした持続可能な社会開発のための世界的なアジェンダを創り上げるために、市民社会の中に相乗作用を創り出すことを目的としている。

ICSW は 3 本のポリシー・ペーパーを作成した。要点は以下の通りである。

- 世界金融危機
- 社会保護フロア・イニシアチブ
- 人身売買

ICSW のウェブサイトにある「今後の世界イベント予定 (Coming Global Events) からアクセス可能。

<http://www.icsw.org/globalev/globalev.htm>.

IFSW は、アジェンダのプロセスに対して、以下の 3 本のペーパーを提出した。

- サービス利用者の関与とソーシャルワーク
- 貧困削減：ソーシャルワークの役割
- 高齢化と高齢者

アクセスは以下から。

<http://www.ifsw.org/p38001915.html>.

IASSW は、以下の 3 本のペーパーを提出した。

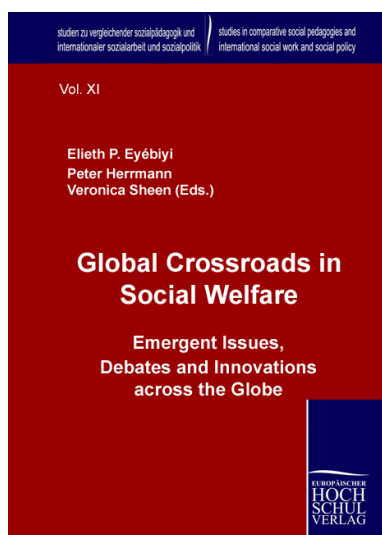
- 若者とソーシャルワーク
- 障害と精神保健

- 災害への関与

アクセスは以下から。

http://www.iassw-aiets.org/conerence_guestbook.php.

新刊～『社会福祉における世界の十字路：世界中の緊急課題、討論そして改革』



この新刊本は、2008年にフランスのトゥールで行なわれた第33回 ICSW 世界会議で発表されたペーパーの断面図を集積したものである。本書は、編集部による解説および各国様々な状況下で働いている著者によるオリジナルのペーパーを通して、会議テーマを覗き込む窓となるものであり、また、国やコミュニティが、市民社会にとってより大きな社会正義および平等なメカニズムを求める声や、グローバリゼーションの問題に取り組む方法の多様性について、大いなる洞察を与えてくれるものである。購入希望の場合は下記もしくはアマゾンへ。

http://www.amazon.de/Global-Crossroads-Social-Welfare-Innovations/dp/3941482777/ref=sr_1_1?ie=UTF8&s=books-intl-de&qid=1274360393&sr=1-1.

なお、本書は香港会議の参加者には定価の半額で販売される。会議場の ICSW のスタンドに展示される予定である。詳しくは下記の編集者まで。

eelieth@yahoo.fr, herrmann@esosc.eu, または vsheen@fastmail.com.au

2009年度英連邦首脳会議に対する市民社会声明

英連邦基金は、2009年度英連邦首脳会議に対するポート・オブ・スペイン（トリニダード・トバゴ共和国の首都）市民社会声明を配布している。声明は以下のサイトから入手できる。

http://www.cfc2010.org/downloads/CPF_2009_Final_Statement.pdf

ポート・オブ・スペイン声明は極めて力強い文書であり、より透明性のある持続可能な未来に向けた連邦全体の作業を助けてくれるものである。詳しくは英連邦基金の障害担当マネージャーである Marcie Shaoul まで。

m.shaoul@commonwealth.int

『アフリカ経済概観 (AEO)』2010年版



2010年の『アフリカ経済概観』が、2010年5月24日にコート・ジボワールのアビジャンで開かれたアフリカ開発銀行の年次会合で出された。今年度版は、この50年間で最も拡大した最も深刻な不況の影響で動揺している大陸の様子をあぶりだしている。多くの国々が、2015年までに極貧状態と飢餓を半減させるというミレニアム開発目標 (MDGs) の達成からは程遠いところにある。

ただ、よいニュースとしては、この地域が、落ち込みにも非常に強いということを証明できた、ということである。経済不況の爪痕はまだ残るものの、2010～2011年には平均成長のリバウンドが期待される。『アフリカ経済概観 (AEO)』の2010年版は下記を参照のこと。

<http://www.africaneconomicoutlook.org/en/>

国際通貨基金 (IMF) は新自由主義を放棄したのか？

<http://www.soas.ac.uk/cdpr/publications/dv/file58920.pdf>

このステキなtwo-pagerを、ロンドン大学東洋アフリカ研究学院のディレクターであるTerry McKinley氏は、次のように締めくくっている。

「最近上がってきた基本的な政策スタンス改革への期待にも関わらず、IMFはその支配的なマクロ経済のフレームワークの新自由主義的な基礎を捨て去るところからは、まだまだ遠く離れたところにある。」

クラスター弾

英国は、「クラスター弾に関する条約」を批准した32番目の国となった。条約については以下を参照のこと。

<http://www.clusterconvention.org/>

批准書は、2010年5月4日にニューヨークで国連に寄託された。条約は、2010年11月1日をもって、英国内で発効する。条約は、クラスター弾の使用、製造、移相、および備蓄を禁じるものであり、近年におけるもっとも重要な軍縮条約のひとつであると認識されている。2010年5月に裁可され、条約の下で英国の国際的な義務を果たすことになる「クラスター弾 (禁止) 法2010」については以下を参照のこと。

http://www.opsi.gov.uk/acts/acts2010/ukpga_20100011_en_1

黒海政策

● 黒海地域における民主主義とよきガバナンス

Franz-Lothar Altmann、Johanna DiemelおよびArmando Garcia Schmidtによる、「黒海地域における民主主義とよきガバナンス」に関する黒海委員会（*）の第4回政策レポートが出された。以下のサイトから入手可能である。

<http://www.blackseacom.eu/policy-reports/>

著者らは、ブルガリア、ルーマニア、トルコ、ギリシャ（以上、地域の西および南側）、アルメニア、アゼルバイジャン、グルジア、モルドバ（以上、紛争に苦しむ国々）、ロシア、ウクライナの10カ国を比較しながら、既存の民主主義機関の質を評価し、黒海地域の政治的発展および社会的発展の普遍的な構造について見極めを行なった。

この多国間の比較に基づいて、著者らは、とりわけ国の援助と市民社会の支援に触れた一連の政策提言を行なっている。

● 黒海の2020年ビジョン

委員会は、このビジョン・ペーパーで、平和と安全保障、経済発展と福祉、民主的な機関とよきガバナンス、そして地域協力という4つの基本的な分野における、あらゆる関係者のニーズと優先順位と利益を考慮した、包括的な戦略の促進を模索している。委員会は、地域の将来は更なる民主化と、より広い世界との経済統合にかかっている、という理解で一致した。市民社会については、委員会は次のように述べている。

「市民社会の政策策定への関与およびよきガバナンスに関する彼らの繋がりを、もっと奨励しなければならない。また、紛争中の国々を含む黒海沿岸諸国の市民社会組織間の協力を促進する努力もしなければならない。商工会議所、雇用者組織、労働組合などの経済界組織も、共通の問題の解決方法を提案するために、お互いのコミュニケーションを奨励すべきである。」

（*）黒海委員会は、2009年にBertelsmann Stiftung（ギュータースロー、ドイツ）黒海地域協力トラスト（ブカレスト、ルーマニア）、トルコ経済政策研究財団（アンカラ、トルコ）、黒海研究国際センター（アテネ、ギリシャ）が合同で立ち上げた、市民社会イニシアチブである。国会委員会のメンバーの中には、黒海地域、EU、米国などの副首相経験者、大臣経験者、現職の国会議員、国会議員経験者、知識人、学者などがいる。

市民社会組織に関する新しいオンライン・ダイレクトリー

国連市民社会・援助活動ユニットは、市民社会組織（CSOs）の新しいオンライン・

ダイレクトリーを立ち上げた。CSOs は、貧困撲滅、社会的統合（ソーシャル・インテグレーション）、雇用、若者、高齢化、保健、家族、障害、先住民、協同組合など、社会開発の様々な分野で活動している。ダイレクトリーは以下のURLで入手可能。

<http://social.un.org/ngodirectory>

また、近々CD-ROMでも入手可能となる予定である。詳しくは以下のアドレスから Mr. Amine Lamrabatまで。

lamrabat@un.org

国連大学開発経済研究所（UN WIDER）の新しい出版物

- 『世界成長の「南」エンジン』
Amelia U. Santos-Paulino、Guanghua Wan編
http://www.wider.unu.edu/publications/books-and-journals/2010/en_GB/Southern-Engines-of-Global-Growth/
- 『アジア、ラテンアメリカおよびアフリカにおけるグローバリゼーション下での貧者』
Machiko Nissanke、Erik thorbecke編
http://www.wider.unu.edu/publications/books-and-journals/2010/en_GB/poor-under-globalization-asia/
- 『「World Development（世界の発展）」特別号：ラテンアメリカにおけるグローバリゼーション、貧困および不平等』（近刊）
Machiko Nissanke、Erik thorbeck 客員編集員
http://www.wider.unu.edu/publications/books-and-journals/2010/en_GB/wd386/
- WIDER ワーキング・ペーパー
 - ◆ 『都市化と南アジアの謎：インドにおけるケース・スタディ』
Basudeb Guha-Khasnobis、K.S.James
http://www.wider.unu.edu/publications/working-papers/2010/en_GB/wp2010-37/
 - ◆ 『貧困撲滅における農業の（進化する）役割：経験にもとづく見通し』
Luc Christiaensen、Lionel Demery、Jesper Kuhl
<http://ideas.repec.org/p/unu/wpaper/wp2010-36.html>
 - ◆ 『出遅れた国々における貧困削減の駆動力：中国西部の辺境地からの例証』
Luc Christiaensen、Lei Pan、Sangu Wang
<http://ideas.repec.org/p/unu/wpaper/wp2010-35.html>
 - ◆ 『破壊的な企業のモデル』
Sameeksha Desai、Zoltan Acs、Utz Weitzel

<http://ideas.repec.org/p/unu/wpaper/wp2010-34.html>

● UNU 政策要約

- ◆ 『アジア、ラテンアメリカ、アフリカにおけるグローバリゼーションと貧困の繋がり』

Machiko Nissanke、 Erik Thorbecke

<http://ideas.repec.org/p/unu/wpaper/pb2010-03.html>

- ◆ 『開発途上国における企業精神の奨励：政策的課題』

Wim Naudé

<http://ideas.repec.org/p/unu/wpaper/pb2010-04.html>

WIDERの全出版物についての情報は、以下のWIDERのウェブサイトにて入手可能。

<http://www.wider.unu.edu/publications/>

本ニュースレターの内容の引用・転載は、出展を明らかにする限り自由です。本ニュースレターに掲載された見解は、必ずしもICSWの方針であるとは限りません。

編集：ICSW 常務理事 デニス・コレル

ICSW 連絡先

ICSW C/- MOVISIE PO Box 19129

3501 DC Utrecht

Netherlands

Email: icsw@icsw.org

Tel: +31 30 789 2226